

## 令和7年度 学校評価表(中間)

学校名 三原市立深小学校

a 学校教育目標	夢と志を持ち、共に高め合う児童の育成		b 学校経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自ら考え行動し、未来を切り拓く児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ふるさとを愛し、活力に満ちた学校										
評価計画			自己評価					改善方策			I 学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	イ	ロ	ハ	コメント
確かな学力 確かな学力の定着と主体的・協働的に学ぶ児童の育成	◎学力の向上 ◎思考力・判断力・表現力の向上	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、R80を核とした授業改善 ○基礎学力の定着・向上(チャレンジタイム・家庭学習・読書朝会等の内容の充実)	○国語・算数・理科の単元末テストの平均点80点以上 ○児童アンケート「授業の内容がよくわかりますか」の項目における肯定的評価の割合	80点 国語85.7点 算数81.0点 理科82.2点	90.9% 90.9%	国語 107% 算数 101% 理科 103%	107% 107%	A	単元末テストの平均点は、国語85.7点、算数81.0点、理科82.2点で、どの教科も目標値80%を達成することができた。 単元末テストの前に、授業の大切なポイントを復習したり、類似問題に取り組ませたりしたことが結果につながったと考えられる。 児童アンケート「授業の内容がよくわかりますか」では、児童の肯定的評価は、90.9%と高く、目標値に達していた。しかし、既習事項を次の単元で生かせていなかったり、忘れていたりする実態がある。また個々では、授業の理解度に差があるため、個の対応も課題である。	授業改善の手立てとして、引き続きユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを行う。また、R80を核とした授業改善として、児童が使える既習事項の掲示を工夫することや児童に書かせたいR80を想定し、児童が振り返られる板書きを行う等、児童の視点に立った授業改善に取り組む。	○	・複式学級での授業の工夫をうまくされており、子ども達もスムーズに学習に取り組めている。理解が進まなかつたところは、それに応じた手立てがされているということで、さらに効果が表れて学力の向上につながるといよい。		
		○筋道立てで伝え合う活動・書く活動の充実(事柄の順序・根拠・比較) ○ICT活用能力・表現力の向上(発表朝会・タピング大会等)	○国語・算数・理科の単元末テストの「思考力・判断力・表現力」の平均点80点以上 ○児童アンケート「わからないうことや詳しく知りたいことがあったときは、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか?」の項目における肯定的評価の割合 ○発表朝会 各学期に1回以上(各学年) タピング大会 各学期に1回以上(全校)	80点 国語91.0点 算数76.4点 理科81.7点	85% 100%	国語 113% 算数 96% 理科 102%	118% 100%	B	単元末テストの「思考力・判断力・表現力」の平均点は、国語91.0点、理科81.7点で、目標値80%を達成することができた。しかし、算数が64.6点で、目標値を下回った。問題の意味を正確に把握する力、記述問題で自分の考えを表現するための語彙力や文章力の不足等が原因として考えられる。 児童全員が肯定的評価をしており、目標値に達していた。しかし、単元末テストの結果が伴っていないことから、児童の認識と実態に差があると考えられる。 発表朝会やタピング大会を1回実施することができた。理由をつけたり、相手に分かりやすく自分の思いや考え方を表現する意識を高めることやICTの活用に向けた基礎としてのタピングの力を伸ばすことができた。	自分で学び方を考え、工夫することができるようにするために、授業の中で、話題を掲示し、順序の言葉を使ったり、根拠を明確にしたりして、表現力を身に付けることができるよう指導する。また、学習の流れを固定化し、児童が自分たちで学びを進められるようにする。 引き続き、自分の思いや考え方を理由と共に表現することができるようするため、自分の考え方と根拠を明確にした表現の場(発表朝会等)を学期に1回以上設定し、相手意識をもって自分の考え方を表現できる力を身に付けさせる。	○	・放課後子ども教室等での普段の様子を見ていると、思惑したり説明したりできる児童は多いように思う。個別だけでなく、全体で力がついていくと良い。		
豊かな心 自他を尊重し、ふるさと深く愛する児童の育成	◎自己肯定感の向上 ◎地域(人・もの)と関わり、地域を愛する児童の育成	○お互いの良さを認め合える活動の推進(児童会活動、学級活動、係活動、縦割り班活動、SST朝会、学校行事等)	○児童会アンケート「自分には良いところがある」の項目における肯定的評価の割合	85% 91%			107%	A	自分のよいところに目を向けることができている児童は、91.0%であった。下校指導で、児童の良いところを具体的に伝えることで児童の自己肯定感が高まったと考える。	自分のよいところに目を向けることができる活動を取り入れる。例えば、SST朝会で児童がお互いによいところを見つけをしたり、朝の会・帰りの会や下校集会で、教職員から児童によいところを伝える等、児童の自信を高める取組を継続して行っていく。1人1人の個性やよさを大切にできる環境づくりにも努めていく。	○	・児童は、それぞれの良いところを具体的な姿を挙げて述べる等、お互いをよく見て評価できる。 ・お互いの良さを認め合っているから、安心して落ち着いて学校生活ができるている感じ。時々、トラブルも起こるが、その都度にされているしっかりとした指導も、落ち着いた学校生活につながっている。		
		○コミュニティ・スクールによる学校・地域・家庭との地域学校協働の活動各学年 年2回以上 各CS部会 年2回以上	○児童アンケート「自分が住んでいる地域が好き」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか?」の項目における肯定的評価の割合	85% 85%	100% 72.7%	118% 86%	B	自分の住む地域のことが好きだと答える児童の割合は100%であった。また、地域のために何をしたらいいか考えている児童の割合は、72.7%であった。CSの活動を通して地域との関わりが増えたことで、地域に対して関心が深まっていると考える。地域のことを知ることができても、地域のために何かをしたいと考える機会がなかったため、目標値を達成できなかったと考える。	地域との関わりを絶やさないために、地域の方との連携やCS活動を行う。 地域をよくしたいと考える児童の割合を増やすために、地域を題材として取り上げて学習を進める教科である生活科や総合的な学習の授業等で、地域のよさに目を向ける機会を設ける。また、その学習の中で、地域との関わりを振り返り、地域のために何をしたらしいのかを考える場を設定する。	○	・住む地域が好きという児童が100%というのは、ありがたい。 ・CSを通して、地域のつながりを作り、体験やふれあいの中で自己肯定感が育つておらず、すばらしい活動になっていると思う。			
健やかな体 体力・運動能力の向上をめざし、自分の目標に向かって挑戦する児童の育成	◎運動の楽しさの実感と体力・運動能力の向上	○体育朝会の実施、課題種目の改善運動の実施 ○振り返りカード・自己目標設定・記録更新への挑戦	○新体力テストの自己記録が昨年度(前回)より伸びた児童の割合 ○児童アンケート:「運動が好き」の項目における肯定的評価の割合	80% 90%	55% 100%	69% 111%	C	新体力テストについては、昨年度の記録と比較しながら取り組ましたが、全種目で目標値を下回っていた。そのため、2学期に2回目の測定を行い、改善できるよう取り組んでいく。 児童アンケート「運動が好き」については、100%と目標値を達成することができた。体育朝会や学級遊び、休憩時間の外遊び等で、友達と一緒に運動する楽しさ等を味わったことにより、目標値を達成することができたと考える。	○体の動かし方がわかる運動を行う。「走ること」「跳ぶこと」「投げること」などにつながる動きを準備運動に取り入れ、実施する。 いろいろな体勢から走る運動を行い、走力の向上につなげる。 児童アンケート「運動が好き」については、100%と目標値を達成することができた。体育朝会や学級遊び、休憩時間の外遊び等で、友達と一緒に運動する楽しさ等を味わったことにより、目標値を達成することができたと考える。	○	・体力テストの記録の伸びが芳しくないのが気になる。 ・体の正しい動かし方を学べると良い。 ・「運動が好き」なのに、速く走れないのはなぜかというところを起点に、児童や教師を交えて一緒に運動する楽しさを保持しながら運動能力の向上になにげないこうとする取組は良い。 ・同学年の児童数が少ないので、競いながら力を伸ばすのは難しい。下学年が上學年を見習って運動し、のびのびと楽しく体を動かしているのが、良い。			
信頼される学校 保護者や地域からの信頼に応える学校づくり	◎積極的な情報発信と不祥事ゼロ	○学校の様子や教育活動について情報発信 ○不祥事防止研修の工夫	○学校の様子や学習内容がわかる情報発信各種便り発行回数月1回以上 HP更新回数月1回以上 地域への学習内容の発信各学級1回以上	100%	100%	100%	A	学校だより、保健だより、すぐ一での配信等、月1回以上の便りを発行することができた。また、HPについても、トップページにトピックスを掲載する等、これまでに月1回以上更新することができた。 不祥事防止研修は、計画に沿って月1回確実に行なうことができた。また、全職員が、「自分も起こしうる危機感を持つた!」月1回のサービス研修で不祥事防止の抑止となっている」と回答した。この不祥事を起したら、自分にどんな影響があるのかについてその都度考え、まとめる作業(R80)を必ず行なうようにしたことが効果的だったと考える。	学校だより・すぐ一・HPを活用して、引き続き、情報発信を定期的に行なう。 不祥事防止研修は、ロールプレイやチェックリスト等、引き続き、自分事としてとらえるよう工夫した研修の継続を行なう。	○	・教職員の働き方改革がある中、時間外勤務45時間を超えないように工夫したり、スケジュール管理をしたりする取組はすばらしいと思う。 ・教職員の時間外勤務を少なくするとともに、心も体も健康でいてほしい。			
		○業務改善の推進	○児童と向き合う時間の確保 ○長時間勤務の削減	○教職員アンケート「児童と向き合う時間が確保されていると感じる」の項目における肯定的評価の割合 ○時間外勤務が月45時間未満の教職員の割合	80% 100%	86.8% 87.5%	108% 87.5%	B	「子どもと向き合う時間が確保されていると感じている」とする職員は86.7%であった。 時間外勤務が45時間未満の教職員は、8名中7名が達成している。 個々に業務改善の努力をしているが、組織的な取組にまで押し上げられていないことが要因と考えられる。	業務を協働して効率的に行なう場(二部会)と、それを受けて検討する場(学校経営会議)を計画的に確保し、確実に周知・実行する等の効率的な組織作りを行う。 それぞれの業務を短時間でも効率的に行なうように、先を見通したスケジュール管理を行う。	○	・教職員の働き方改革がある中、時間外勤務45時間を超えないように工夫したり、スケジュール管理をしたりする取組はすばらしいと思う。 ・教職員の時間外勤務を少なくするとともに、心も体も健康でいてほしい。		

④本年度の重点目標については④印で示す。

## 【j:自己評価】

- A: 100点(目標達成)  
B: 80点(ほぼ達成)<80  
C: 60点(もう少し)<60  
D: (できていない)<60

## 【l:学校関係者評価】

- イ: 自己評価は適正である。  
ロ: わからない。  
ハ: 自己評価は適正でない。